今日のみ言葉 240 「闇の中にも光が昇る」2014.7.10

まっすぐな人たちには、闇の中にも光が昇る。 主は情け深く、あわれみ深く、正しくあられる。（詩篇 112:4）

Light rises in the darkness for the upright; the LORD is gracious, merciful, and righteous.

闇の中にも光が昇るならば、私たちはその闇に呑み込まれないで進んでいくことができる。この世には、周囲の至るところで闇がある。私たちの心の内にも、その闇は入り込んでくる。その闇は、人の心を不正なことをなさしめたり、他人を悪く思ったり、妬み、憎しみ、あるいは自分中心の考えや快楽に負けてしまう心となって現れる。

そのような闇の状態のままに置いておくと、いっそうその闇は私たちの中でひろがり、さらに周囲にもその闇が伝わっていく。

その闇の力は強く、私たちはしばしばその力に負けてしまう。

それゆえに、光である神は私たちに語りかけ、そうした闇の力にうち勝つようにとさまざまの方法で近づいて来られる しかし、もしそうしたこの世の闇のただ中に、上よりの光が与えられるならば、そうした闇の力にうち勝っていくことができる。

主イエスが、「私はすでに世に勝利している。」（ヨハネ16の33） と言われたのは、イエスご自身が光そのものだったからである。この世という闇に勝利しているから、そのイエスを信じて従う者もまた、この世の闇にうち勝ちつつ歩むことができるということである。

そのような光はどのような人が受けるのか、まっすぐな人たちだという。 それはどんな人のことだろうか。聖書で言われている真っ直ぐなというのは、一般的に言われている素直というのとは異なる。神が今も生きてはたらいておられるのであり、その神にまっすぐに心を向ける人を意味している。聖書の世界ではそのような神がおられるというのがすべての前提となっている。

神に向って真っ直ぐに心を向ける―そのような心を主イエスは、幼な子のような心と言われた。幼な子―とくに乳児は母親を真っ直ぐに見つめる。そのようなまなざしで神を見つめようとする人こそが、ここで言われている「まっすぐな人たち」である。

これは、地位やお金、あるいは善き行い、経験、特別な能力等々なにも必要でなく、ただそれぞれの人がその場で心を愛と真実の神に向けるだけでよいのだから、万人に開かれた道なのである。

「疲れた者は私のもとに来れ、休みを与えよう」と主イエスは言われたが、それは「闇に苦しむ者は私を見つめよ、そうすれば光が与えられる」ということとほぼ同じような内容をもっている。

すでに、イエスよりも500年以上も昔に、預言者イザヤは、神から受けたメッセージとして、次のように語りかけている。

「さあ、かわいている者はみな水にきたれ。金のない者もきたれ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。」（イザヤ書55の1）

ここでも表現は異なるが、光に渇いている者への呼びかけでもあり、何ももっていなくとも神のもとに行くだけで、ぶどう酒と乳で象徴される神の賜物、いのちの光が与えられることが示されている。

「求めよ、そうすれば与えられる」―このイエスの言葉は、このイザヤ書の言葉とともに、私たちに常に語りかけているメッセージとなっている。

野草と樹木たち　コバイケイソウ

福島県 吾妻連峰　2013.7.22

コバイケイソウは、以前にも取り上げたことがありますが、この写真は、周辺の初々しい緑と水がその白い花と溶けあうようにして私たちの心に入ってくるものです。
高山に咲く植物は、夏の間のごく短い期間にしか生育できず、また厳しい寒さや氷雪に埋もれてしまう環境にあります。平地に咲くものとはちがって気品のあるもの、また色が鮮やかであったり、その彩りもまた印象的なものが多くあります。

それと対照的に、平地の草原や道端にみられるオオバコ、エノコログサ、メヒシバ、ヨモギ、スズメノカタビラ等々は、花は目立たず、ほとんど注目されないのですが、それらの花は暖地では春から秋にかけての長い期間、咲き続け、多くの種子を散らしていくためにその性質は強く、どこででもみられるものとなっています。そしてそのような 目立たない植物たちが生育することで、昆虫や地中生物も豊かになり、樹木も育ち、全体として緑の環境を造り出しているのです。

そうした地味な植物たちとちがって、高山の美しい花々は、人の心に直接に訴えかけてくる力をもっています。しかし、それらの美しい花たちもさまざまのほかの植物や土中の微生物たちによって支えられています。

そうした大きな自然の営み、それは人間が存在するはるか以前から、創造主たる神によって備えられたものです。このコバイケイソウの白い花の周辺や、水の向こうの山々を緑に染めている目立たない植物たちもまた自然のオーケストラの一因として、コバイケイソウとともに私たちに語りかけています。

緑と白、そして水のある風景…それらはいずれも私たちの心の本質にかかわるものを象徴しています。緑、それは希望のシンボルであり、私たちの誰もが日々必要としている生きる力を指し示しています。

白、それは汚れない心の姿であり、人はどうしてもさまざまの汚れに染まってしまうゆえに、こうした白色の花に心惹かれます。聖書にも、「私を洗ってください、雪よりも白く…」（詩篇51の7）とあります。

そして 水―これは渇いた私たちの魂をうるおし、いのちを与え、そして清める力を指し示しています。 それゆえに、こうした三つのものが溶け合っているこうした風景に心惹かれるのです。

（文、写真ともT.YOSHIMURA）